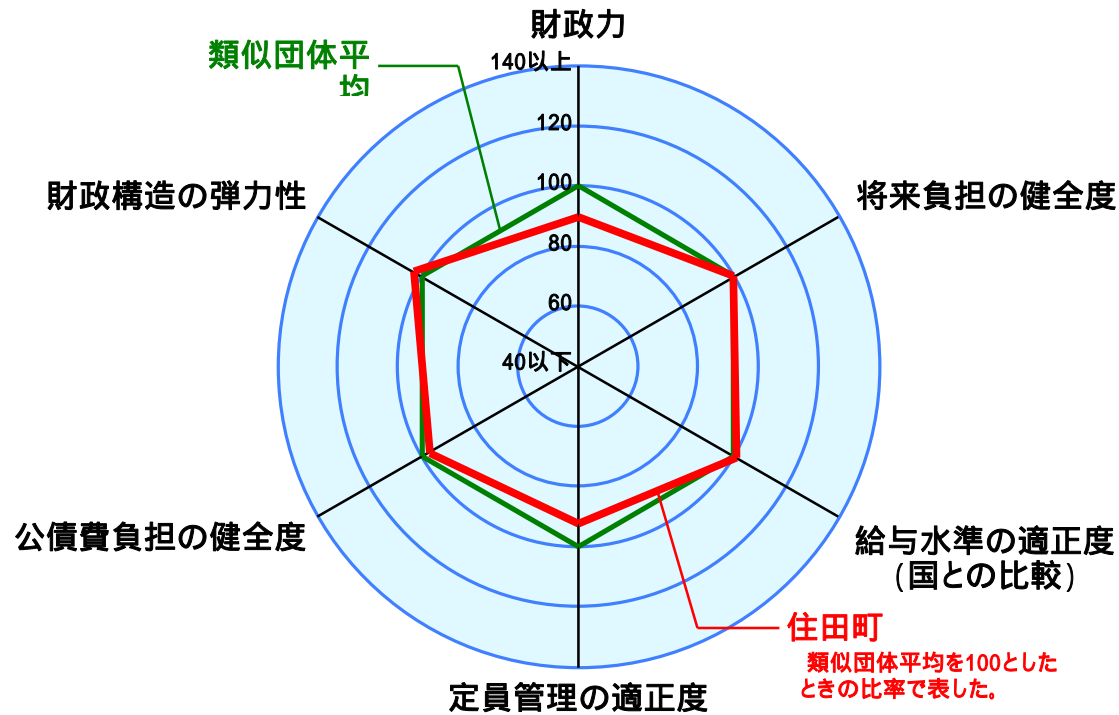
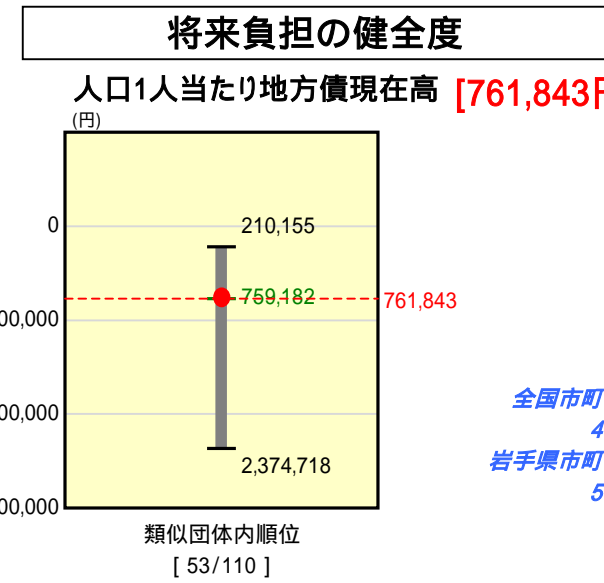
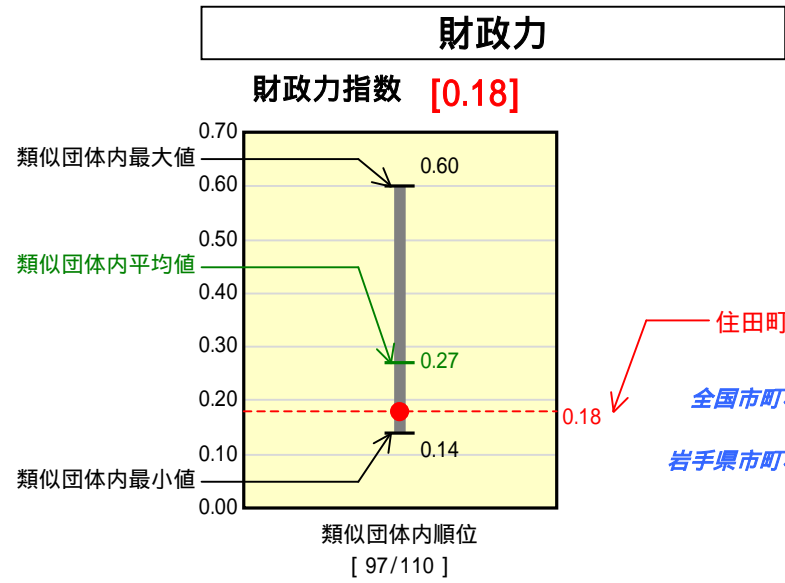


市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

岩手県 住田町

人口	6,994人(H17.3.31現在)
面積	334.83 km ²
歳入総額	3,979,676千円
歳出総額	3,874,709千円
実質収支	103,099千円



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を88のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

【**財政力指数**】人口の減少や全国平均を大幅に上回る高齢化率(H16.10.1現在、35.9%)に加え、長引く景気低迷による個人や法人の減収などから、類似団体平均を0.09ポイント下回っている。「自立・持続する町づくり」を進めるため、事務事業の見直しや組織の再編(6課2室→7課1室)、定員管理の適正化(H17:116人、H22:105人)、中期財政計画に基づく歳入確保と歳出削減を引き続き実施する。

【**経常収支比率**】歳入では、普通交付税の減(54,213千円)、臨時財政対策債の減(115,700千円)が大きくなる一方で、歳出では、人件費が35,741千円(経常経費充当一般財源)の増となった。今後、国の給与制度の見直しに準じ、給料表の改定や定員管理の適正化により人件費の抑制を図る。公債費については、H13のおよそ8億円から年々減少傾向にあり、H20には6億円台になる見込みである。

【**ラスパイレス指数**】類似団体平均より0.2ポイント下回っている状況である。人件費の縮減については、H16に策定した定員適正化計画を柱に、特殊勤務手当の廃止、時間外勤務手当の抑制、外部委託の促進などを実施しているところである。今後数年間は、給与制度改正により、大きな増額は見込まれない。

【**起債制限比率**】H13の8億円の元利償還金をピークに年々減少しているものの、類似団体平均を上回っている。今後は、生涯スポーツセンターの償還がH19で終了するなど元利償還金は年々減少していく。(H16とH20の比較で120,000千円の減)また、普通建設事業などについては、開発計画の毎年度見直しなどにより、緊急性や必要性を検討し地方債発行額を調整している。

【**人口一人当たりの地方債現在高**】類似団体平均とほぼ同じである。起債額の大きいものとしては、H7からH9にかけて整備した生涯スポーツセンター事業(総事業費約9億円、うち起債7.3億円)、H14開園の世田米保育園(1.8億円)、H16完成の学校給食共同調理場(起債額2億円)、臨時財政対策債が挙げられる。財政の健全化を図るためにも、住民説明を十分に怠りながら、共通認識の下、事業を展開していく。

【**人口1,000人当たり職員数**】類似団体平均より2人ほど多くなっている。定員適正化計画に基づく定年退職者の不補充、勸奨退職制度の実施、民間委託の推進、組織機構の簡素合理化などにより、H22までに9人の削減を図る。

